

本号の記事

○第69回全国大会（徳島大会）概要

2016

# 協会ニュース 増刊号



鳴門大橋(瀬戸内海)

提供:一般社団法人 徳島県観光協会



徳島県マスコット「すだちくん」

すま 15-143 号

平成28年3月16日修正版

全国公立高等学校事務職員協会

<http://zenjikyojimdo.com/>

事務局：茨城県立竜ヶ崎第一高等学校

電話：0297-62-2146

住所：茨城県龍ヶ崎市平畑248

# 第69回全国公立高等学校事務職員研究大会 (徳島大会)

**目的** 学校における教育諸問題について研究協議し、学校事務の合理化を図り、学校事務関係職員の資質を高め、学校教育の目的遂行に寄与する。

**期日** 平成28年8月3日(水) 全国理事会  
平成28年8月4日(木)～平成28年8月5日(金) 研究大会

**会場** パークウェストン(常任理事会・全国理事会)  
あわぎんホール(全体会・分科会)

**日程** 平成28年8月3日(水) 13:50～17:00  
常任理事会、全国理事会

平成28年8月4日(木) 12:50～17:30  
開会式、表彰式、文部科学省講話  
全体会(記念講演)  
講師 山田実氏  
阿波おどり振興協会理事長  
演題 「魅力ある郷土芸能の伝承と発展」(予定)  
総会

平成28年8月5日(金) 9:20～16:20  
分科会、閉会式

時間 日	8		9		10		11		12		13		14		15		16			17		会場
	8	20	9	20	10	20	11	20	12	50	13	40	50	14	50	15	16	40	10	20	30	
8月4日 (木)											受付	開会式 表彰式	休憩	文部科学省 講話	休憩	全体会 (記念講演)	休憩	総会				あわぎんホール
8月5日 (金)			受付	分科会(前半) (研究発表)				休憩	分科会(後半)				休憩・移動	閉会式				あわぎんホール				

## 第69回全国公立高等学校事務職員研究大会 徳島県実行委員長 山中久美子

皆さま、こんにちは。第69回徳島大会実行委員会の山中と申します。第68回佐賀大会が、盛会のうちに終えられましたことを、心からお喜び申し上げます。また、心温まるおもてなし、気配りの行き届いた大会に大変感動いたしました。ありがとうございました。

さて、第69回大会は、平成28年8月3日から5日まで、徳島県で開催されることとなりました。今、実行委員会では、全国からお越しくださる皆さまを気持ちよくお迎えできるよう、準備を進めているところです。

今、日本社会は「みんな一緒」の時代から、価値観の多様化・複雑化が進んだ「個」の時代へと変化しており、それに伴って、学校が抱える課題も多様化・複雑化しています。この課題を解決するための手法として「チームとしての学校」の実現が急務とされ、事務職員もその専門性を生かして学校運営に直接関わることが求められております。今回の全国大会では、学校運営に直接関われる事務職員の育成についても、議論されることでしょうか。皆さまにとって、実り多い大会になるようにと願っております。

8月の徳島と言えば、皆さまよくご存じの阿波踊りの季節です。阿波踊り本番直前のこの時期、夕暮れともなると、徳島の街中では至る所から阿波踊りのお囃子が聞こえてきて、踊り子達が一生懸命練習している風景が見られます。徳島でのお土産として、このような風景も楽しんでいただけたら、と思います。学校事務を取り巻く状況は、ますます厳しくなっておりますが、徳島に来られたときには、阿波踊りの勇壮な男踊り、優美な女踊りを楽しんでいただくとともに、海・山・川の美味しい食べ物に舌鼓を打ち、江戸時代から続く藍染め「阿波藍」を堪能し、四国88カ所巡りの発心の地「第1番札所霊山寺」なども訪れていただけたら幸いです。

最後に今大会のキャッチコピーを皆さまにご紹介します。  
「ほれええなあ！ほうなんじゃ！発見いっぱいようこそ徳島」  
「ほうなんじゃ！」と感心していただき、「ほれええなあ！」と楽しんでいただけるよう、職員一同で皆さまをお待ちしています。



すま 15-143 号

## 全体会 記念講演

講師：山田実氏 [ 阿波おどり振興協会理事長  
阿波おどり振興協会所属 「天水連」連長 ]

演題：「魅力ある郷土芸能の伝承と発展」(予定)

「略歴」 昭和28年 徳島市生まれ

3歳から阿波踊りを始め、持ち前の探究心で、阿波踊りの歴史や踊り方鳴り物に至るまですべてに精通している。

祖父は初代「天水連」連長、父は二代目連長であり、平成15年には四代目連長に就任。現在「天水連」連員は230名を越え、徳島の有名連の中でも、洗練された踊りや鳴り物で注目されている。

平成17年には「阿波おどり振興協会」理事長に就任。阿波踊りの振興と後進の育成に力を注いでいる。幼稚園や小学校への阿波踊り出前事業をはじめ、全国各地での公演や、阿波踊りや鳴り物の指導、老健施設などでのボランティアなど、1年365日阿波踊りに関わる毎日である。最近では、海外の公演も積極的に行っている。

阿波踊りのステージでは、分かりやすい解説と軽妙なトークで、阿波踊りファンを増やしている。

生家では家族全員が阿波踊りに関わっており、自ら「お袋のおなかの中で、ぞめきを聞いた！」と話す、生粋の阿波おどり人である。

「著書」 流儀伝承「阿波踊り人の吟持」

《午前の部》

### ○ 研究発表

- (1) 学校事務職員の『絆』 ～G J Work Note 後輩へ送る仕事術～  
熊本県立水俣高等学校 主任事務職員 松本 哲郎  
熊本県立八代農業高等学校 主任事務職員 田中 陽子  
熊本県立八代工業高等学校 事務職員 田中 拓海

ここ数年、熊本県の学校事務職員の採用や異動形態が大きく変化しています。人事異動が活発化してくると、近い将来、経験豊富で学校事務に精通している職員が減少し、それとともに経験の浅い職員の増加が予想されます。このような職員の仕事の手助けとなるものはないかと考え、標準化された「学校事務職員の月間スケジュール帳」と仕事術や心構えを掲載し、「絆」を感じられるような「先輩から後輩へ贈る仕事術」を合作した「G J Work Note」について、作成の動機・経緯や活用方法、そして改善点などについて発表します。

- (2) 教員と学校事務職員の「協働」における一考察  
～校内ネットワークとICTを通して～  
京都府立海洋高等学校 主任 松井 宏介

学校経営において学校事務職員のより一層の参画を考えるにあたり、教員と学校事務職員の「協働」は外すことのできないキーワードであり、広報等の総務的な業務、他分掌への関与、より効果的な財務マネジメント等多くの可能性が考えられます。

本研究では、昨今、学校において「ライフライン」ともいえる「ネットワーク」や、教育や業務の中心となりつつある「ICT」に着目し、学校事務職員として一定必要な知識を身に付けることで、教員の負担軽減と、学校事務職員の学校経営への参画、そして教員と学校事務職員の「協働」を考える機会とします。

- (3) 役に立つ「学校事務Q&A」集 ～学校事務に携わる職員のために～  
山形県立新庄神室産業高等学校 事務部次長 林 信治

本県における学校事務職員は、知事部局等との人事交流により配置されている職員がほとんどであるため、初めて学校事務を担当する職員が数多く存在します。このことから、学校事務特有のルールや事務作業に戸惑う職員も多く、よく聞かれる疑問や質問等を取りまとめたQ&Aを作成し、広く県内公立学校に配付することにより、共通認識に立った事務執行と事務作業の効率化を図ることを目的として、本取り組みを行うものです。

# 第1分科会

《午後の部》

## I 基調講演

仮題 組織力アップとチームワーク  
講師 教育支援協会チーフコーディネーター 寺脇 研 氏

## II シンポジウム

テーマ 「チームとしての学校」で事務職員がリーダーになる  
～事務職員の専門性・能力を発揮するために～  
パネリスト 1 教育支援協会チーフコーディネーター 寺脇 研  
2 徳島ユネスコ協会会長(日本ユネスコ国内委員会委員)  
元 大塚国際美術館 理事  
元 大塚製薬(株)徳島板野工場長 河内 順子  
3 高知県立高知農業高等学校 事務長 本川 博幸

### ○ 問題提起

「チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会「中間まとめ」の具体的な改善方策の一つとして「専門性に基づくチーム体制の構築」がある。学校や教員は、複雑化・多様化した課題を抱え、教員の専門性だけでは対応に苦慮したり、個別の対応では十分な対応ができないなどという実態に、教員以外の職員や専門スタッフを活用し、教員が専念できる体制の整備が重要としている。さらに、多様な専門スタッフが子供への指導に関わることで、教員のみが子供の指導に関わる現在の学校文化を転換して行くと同時に、事務職員にもこれまで以上に学校組織マネジメントの実践と重要な役割が期待されている。さらに、地域との連携体制の整備として、学校と地域の信頼関係の構築や組織的な地域連携活動の展開を進めていき、事務職員の役割の必要性や重要性に関する知識を高めることも重要としている。

そこで、「チームとしての学校」で重要な役割が求められている事務職員が、様々な業務を連携・分担してチームとしての組織の中で、積極的に参画し力を発揮していくために、今、何を学び・何ができるのかについて考えて行きたい。

仕事上のチームワークはそれほど単純なものではないだろう。情報を共有するためにコミュニケーションも欠かせないのだが、事務職員のリーダーとしてチームが目標を達成するため、成果を上げるために学校の様々な取組みにどのように関わっていかなくてはならないかを企業の有識者を加え討議したい。

また、参加者から事務職員の役割について意見、質問をいただきたい。

### ○ 討議の3本柱

- 1 組織力アップを引き出すチームワーク
- 2 事務職員の専門性を活かす
- 3 専門スタッフと地域連携の重要性

## 第2分科会

### 業務の改善と効率化 — 実践と提案 —

《午前の部》

#### ○ 研究発表

##### (1) 「香川県立学校授業料等管理システム」について

香川県立善通寺第一高等学校 事務部長 高崎 明広

香川県では、平成25年度から「香川県立学校授業料等管理システム」の運用を開始し、平成26年度からは高等学校等就学支援金にも対応できるような仕様となりました。開発には県知事部局（情報政策課）、県教委（高校教育課・特別支援教育課）の担当者が携わり、現場の意見を反映したシステムとなっています。

研究発表では、本県のシステム概要と開発経緯について、関連法令とともに紹介します。今後、システムを開発する際や事務処理の参考となればと思っています。

##### (2) 福井県における会計事務の適正化、効率化について

福井県立高志高等学校 事務長 藤野 立秀

本県では事務監査やかいの会計検査においては、学校が以前から事務における歳出事務での指導・指摘件数が多かった。財務規則の解釈等において学校毎のローカルルールが発生してしまったことも否めません。

そのような不具合や不正防止のために、本県では平成27年度から歳出審査を県内6か所の会計室で一括審査することとしました。

その背景と、各学校での歳出事務適正化への取り組み、関連する事務効率化の取り組みを紹介します。

##### (3) 学校から発生する廃棄物の適切な処理方法

～初心者へのガイダンス～

北海道室蘭栄高等学校 主任主事 山田 政紀

一般廃棄物をはじめとする様々な種類の廃棄物について、排出方法がわからない等の理由で校舎内に溜め込むことなく、廃棄物の種類に応じて適切に排出していくためにはどのような事務処理をしたらよいのか、実際に学校で発生する廃棄物を例に挙げながら初心者にもわかりやすいよう概要をまとめました。

### 《午後の部》

#### I 基調講演

仮題 「ワクワク仕事をしよう」  
～あなたの習慣が事務室を変える～  
講師 習慣の専門家 佐藤 伝 氏

#### II シンポジウム

テーマ 「効率的に仕事をするための習慣とは」  
～事務室の雰囲気をよくしよう～

パネリスト 1 習慣の専門家 佐藤 伝  
2 香川県立高松東高等学校 事務部長 福田 正裕  
3 愛媛県立松山南高等学校 事務係長 武本 伸一  
(砥部分校)

#### ○ 問題提起

私たちの業務は、IT化が進んだことで効率化が図れているはずである。

しかしながら、朝早くから夜遅くまで仕事を頑張っているのに、なんだかうまくいかないと感じる。困難な仕事をやり遂げたのに達成感がなく、常に時間に追い立てられていると思うなど毎日の職務が、自分でも気がつかないうちに辛くなっていないだろうか。さらには、休む余裕がなくなったと感じている人さえいると聞き及んでいる。

学校事務という同じ仕事でありながら、心身ともに疲れている人と苦勞を感じず順調に仕事を進めていく人との違いは何か。それが、日々のちょっとした習慣にあるとしたらどうだろうか。

自分が変われば思考が変わる。思考が変われば言葉が変わる。言葉が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。運命が変われば人生が変わる。多くの著名人が引用している言葉である。

困難な仕事も、やりがいを実感できれば積極的に取り組もうという気になる。まずは一人一人が良い習慣を身につけることで、やりがいをもって仕事に取り組むことができるようにする。それが周りに好影響を及ぼし、職場の雰囲気をより良くする。

では、効率的に仕事をするための習慣とはどんなものか。習慣の改善方法や、気持ちよく仕事をするための心構えなど、行動習慣の専門家を講師として招き職場の雰囲気の向上を通じて仕事の効率化を目指したい。

また、参加者から効率的に仕事をするための意見、質問をいただきたい。

#### ○ 討議の3本柱

- 1 効率的に仕事をするための習慣とはどのようなものか
- 2 習慣を身につけるにはどのようにすればよいか
- 3 コミュニケーションスキルが及ぼす効果

## 第3分科会

今日的課題への提言 ー多様な視点からの学校づくりを考えるー

《午前部》

### ○ 研究発表

#### (1) 災害時の備えはできていますか？ ～災害備蓄編～

千葉県立袖ヶ浦高等学校 主事 栗原 千宏

災害に備えるということで、事務室で考えられることの中に備蓄があります。地区内の学校について備蓄の現状を調べ、地域・市町村の備蓄の状況を参考に、保管場所・管理方法等、考慮する点を検討しました。実際に備蓄を使用しなければならなくなったときを想定して事前に準備する事項など理想的な形を考えてみました。

#### (2) 災害発生！水は？電気は？ ～事務職員ができること～

岐阜県立岐阜高等学校 事務職員 清水 浄規

南海トラフの大地震がいつ起きても不思議でない状況である昨今、どうやって命を守るのかといったことが話題に上ることも多くなりました。また、集中豪雨による各地の被害は何十年に一度といわれる規模で発生しており生徒の命を預かる学校現場は、より一層生徒の安全について考えなければならない状況であるといえます。生徒の命を守ると同時に、我々も自分の身を守らなければならないということを忘れてはなりません。

各県の研究会でも災害から身を守るための研究等がされており、岐阜県でも考えてみようということから、災害が発生したとき、事務職員として何ができるかを考え研究を始めることにしました。

#### (3) 就学奨励費って何？

～理解を深めるために～「就学奨励費のしおり」(改訂版)の作成

北海道白樺高等養護学校 事務主任 橋本 真

北海道札幌稲穂高等支援学校 主任主事 新田 淳

北海道の多くの特別支援学校では、平成18年当時北海道特別支援学校事務職員会で作成した「就学奨励費のしおり」を保護者向けの説明資料として使用してきました。

約10年が経過し、制度の改正も進んでいることから、この「就学奨励費のしおり」改訂版(以下「しおり」)の作成に取り組みました。「しおり」では保護者目線で資料作成することに重点を置き、「保護者の理解」を深められる「教科書」的な資料になるよう研究した結果、「ユニバーサルデザイン」の原則の考えを取り入れた「しおり」を完成することが出来ました。

作成した「しおり」の工夫点など、具体的な活用方法、活用事例も含めて発表します。

《午後の部》

### I 班別討議

討議題 「 就学奨励費について考える 」

～ 特別支援学校での就学を支える制度運用の現状と課題等の考察 ～

講師 文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課 担当官

#### ○ 問題提起

就学奨励費は、特別支援教育の充実及び振興を図ることを目的として、「特別支援学校への就学奨励に関する法律」に基づき、特別支援学校等に就学する児童生徒の保護者等に対し、経済的負担を軽減するため、世帯の収入等に応じて就学に必要な経費の一部を国と都道府県市が負担又は補助するものである。

対象となる経費は法令等で定められ、保護者等の実費負担額がその対象となっている。世帯の収入等を把握するため、保護者等の経済的負担能力の程度決定や学用品購入費をはじめとした負担又は補助の対象となる経費の算定については、児童生徒個々に算定しなければならず、支給事務等を含め複雑で細心の注意を要し、個人情報についても極めて慎重な取り扱いが求められている。また、経費の算定にあたっては保護者等から領収書の提出が義務付けられており、保護者及び担任等への制度周知や事務手続き等の説明、情報共有等が重要となっている。

法令等に基づく具体的な事務処理は、都道府県市統一したソフトウェアや事務職員が開発したシステムの使用、その他学校ごとの独自処理などその方法はさまざまである。

そのような中で、会計検査院の实地検査において支弁区分の誤りや対象外経費の計上など複数の返還事案が発生し、文部科学省からは再三にわたって再発防止を図るよう求められている。

そこで、本全国大会において、保護者等への制度説明や手続きの周知、実際の事務処理等で工夫していること及びその効果等について情報を共有し、課題等に係る検討と分析を行い、今後自身の事務処理の適正化に生かせるよう班別にグループ討議を行うものである。

また、文部科学省の担当課より講師を招き、班別グループ討議の様子や実務を遂行する中での留意点、困難や不安を感じている現状など実務担当者の率直な意見や考えを直接伝える機会としたい。

班別グループ討議の後は本分科会参加者全員が集まり、各班代表者による討議報告及び意見交換等を行い、より多くの事例や課題等を共有する。

#### ○ 討議の3本の柱

- 1 就学奨励費に関する事務処理上の工夫や改善点に関する情報共有
- 2 就学奨励費に関する事務処理の課題検討及びその分析
- 3 特別支援学校における諸課題や懸案事項等の協議及び意見交換

### 特別支援学校の班別討議を行います

今年の徳島大会では、第3分科会で特別支援学校の参加者による班別討議を行います。「就学奨励費について考える」をテーマとして、教室不足やスクールバス運行等特別支援学校で直面している諸課題等についても意見交換等ができるよう構成を検討しています。

全国からの参加者のみなさんと意見交換等を行う貴重な機会であり、有意義な分科会となるよう準備をすすめています。

また、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課の担当官にも来場いただき、討議の講評をいただくとともに、直接意見等が伝えられる機会となるよう、現在調整中です。

平成23年度に開催された第64回京都大会以来5年ぶりの特別支援学校を対象とした分科会の開催となります。特別支援学校の多くの方の参加をお待ちしています。

#### 情報！！

囲み内のPRどおり、第3分科会の午後は特別支援学校の班別討議です。

そのため、今大会では次の分科会選択を可能としています。

午前：第3分科会 → 午後：第1分科会

午前： // → 午後：第2分科会

また、次を希望する場合は、大会事務局までご相談ください。

午前：第1分科会 → 午後：第3分科会

午前：第2分科会 → 午後： //



# 会場案内 徳島県 あわぎんホール



(全景：全体会・分科会)

(徳島市藍場町2-14 TEL:088-622-8121)



(大ホール：第1分科会会場)



(大会議室：第2分科会会場)



(小ホール：第3分科会会場)

# パークウェストン

# 会場案内

(全景：常任理事会・全国理事会)



(徳島市南前川町 3-1-22 Tel : 088-624-3333)

## 本部活動報告

- 1 / 8 ●常任理事会 (小山台会館) 第2回徳島大会合同打合せ会について  
功労者表彰について 等
- 2 / 25~26 ●第2回徳島大会合同打合せ会 (徳島県あわぎんホール等)

## 編集後記

次号「協会ニュース7月号」は全国大会特集号となります。また、大会終了後には「大会速報版」を発行し報告します。

- 「協会ニュース」についてのお問い合わせ、ご連絡は次の広報部編集担当まで
- ・群馬県立太田女子高等学校 / 菊地  
TEL : 0276-22-6651 FAX : 0276-22-4701 mail : kiku-ta@pref.gunma.lg.jp
  - ・東京都立松原高等学校 / 橋村  
TEL : 03-3303-5381 FAX : 03-3304-3062 mail : Ikumi\_Hashimura@member.metro.tokyo.jp
  - ・千葉県立船橋古和釜高等学校 / 平田  
TEL : 047-466-1141 FAX : 047-463-4816 mail : t.hrt5@pref.chiba.lg.jp